

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	122	実施計画番号	32
事務事業名	高齢者講座(成人講座)の推進		事業開始年度 平成8年度
担当課名	東公民館		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	十和田市公民館条例第4条第1項第2号、同条例施行規則第3条第1項第2号	関連事務事業	
背景や経緯等	高齢化率の増加に伴い、高齢者においても、学習の成果を社会参加活動の促進に生かすことがもとめられることから、公民館開館と同時に開設する。		
事務事業の目的	高齢者に適切な学習の機会を提供するとともに、学習の成果を生かして社会参加活動を促進する。		
実施状況	開催回数・・・24回 (うち、野外学習3回)		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	75	75	54
	人件費(千円)	2,700	2,700	1,944
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		10	8	11
うち一般財源		10	8	11
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①		高齢者講座「遊友ひがし」参加者			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	参加人数		人	27	24	25
	活動指標名②					
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
成果指標	成果指標名①		参加人数			
	計算式等		単位	23年度	24年度	25年度
	参加人数	人	目標値	25	25	25
			実績値	27	24	28
			達成度(%)	108%	96%	112%
	成果指標名②					
	計算式等		単位	23年度	24年度	25年度
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	122
計画No	32

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 ・高齢者講座の開設については、毎年4月の広報の案内を楽しみにしている受講者もあり、1年間通しての場所、講師の確保などは公民館ならではのものと感じる。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 ・概ね月2回の講座の日以外にもクラブ活動を行っているほどで、高齢者のひきこもり防止に繋がっている。 ・特に、年3回の野外学習は人気が高い。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 ・講演などの講師招聘については、市や県選挙管理委員会の出前講座などを活用し、一般会計からの負担を最小限に抑えるよう努めている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 ・広報により参加者を募っており、公平さは保たれている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由 高齢者が生きがいを持ち、これからの地域づくりに意欲的に関わっていくためにも必要なことと考える。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 地域で高齢者が積極的に活躍するためにも、高齢者に対し様々な学習の機会を整備し展開する。高齢者が生きがいを持ち高齢社会を過ごせるよう学習プログラムを工夫する。